



議会だより



CONTENTS

3月定例議会の概要	2~3
会派代表質問、一般質問	4~9
常任委員会・分科会審査報告	10~12
議会運営委員会行政視察、議員研修会	13
厚木市議会との交流、行政視察受入報告	14
市民と議会の懇談会	15
市民の声、議会の主な動き	16

きれいに花開いたカンパニュラを収穫
(十字架)

ココが聞きたい

会派代表質問・一般質問で市政を問う



会派代表質問より(左から)
市民の会 菅原正志議員
新 政 会 佐藤清春議員
さきがけ 塩田 勉議員

3月4日に会派代表質問が行われ、3つの会派の代表が施政方針や教育行政方針について、市長や教育長に考えをいただきました。
また、7日・8日に行われた一般質問では8人の議員が登壇し、市民の皆さんの生活にかかわる行政全般について質問をしました。
各質問の内容は、紙面の都合上、要約して掲載しています。すべての質疑内容は、市議会ホームページの「議会広報」⇒「市議会中継(録画)」で、質疑全文を記録した「会議録」は6月上旬から市内各図書館でご覧いただけます。

◆会派代表質問……P4～5 ◆一般質問……P6～9

多くの理解と賛同を得る行政運営のため心がけていることは、

市民の会 菅原正志議員

問 組織再編後の所感と今後の取り組みについて。

答 まちづくり推進部は、300名を超える規模なので、次長職を新たに配置して機能性を高める。総合政策部においては、財政と企画の連携が、効率的な施策の実施や課題解決に生かされた。

問 総合計画の策定にあたり、重点項目は何か。

答 「働く場を充実させる取り組み」と「安心して子どもを産み育てられる環境の実現に向けた取り組み」である。

問 米依存からの脱却と農業所得向上のための具体策は何か。

答 既存事業も最大限活用しながら、複合産地を推進する。適地適作を農業振興策の一つと捉え、関連機関と連携し取り組んでいく。

問 地域づくり計画と地域づくり協議会委員の就任期間にずれはないのか。

答 委員構成については条例に定め、各地区会議の委員を1名以上選出することとしている。諮問については、市の重要施策に対し、市民の意見を反映させる。



3月議会の資料の一部
(平成28年度施政方針と予算書)

コスト重視の考え方は、周辺地域の過疎化を招く

新 政 会 佐藤清春議員

●市町村合併の検証について

問 横手市の現状分析と、市長が考える均衡ある発展とは。

答 市民の皆様の意識は徐々にではあるが、単独の地域を越え、「横手市」として思い、考え、行動してもらえるようになってきていると感じる。また、8地域それぞれが拠点となり、相互に繋がるような「多極的なネットワーク型のまち」を目指すことが重要である。

問 コスト重視の考え方は、周辺地域のさらなる過疎化を招くおそれはないか。

答 厳しい時代を生き抜いていくための重要な手段の一つ。コスト至上主義に陥ることなく、コストと効果のバランスを見極めながら市政運営にあたっていく。

●地域価値創造拠点整備構想について

問 基礎的研修は実験農場で行い、その後の研修を先進農家にお願



本格シーズンを迎え苗づくりで活気づく実験農場

すれば、より実践的な研修につながるのではないかと。

答 有効な策と思うが、受け入れ農家に相応の負担がかかる等課題もある。現在の研修カリキュラムを検証しながら、先進農家での研修についても検討していく。

問 農家所有の農地を借りて実証圃場として活用するのにも一方法。

答 実験農場での実証栽培だけではなく、すべての農地に適した品種や栽培方法を検証できるとは限らない。地域適性を検証するうえで有用な考え方である。

秋田道(横手・北上間)の四車線化に向けて同盟会の設立を

さきがけ 塩田 勉議員

問 物流の強化や企業誘致を図る上で、秋田自動車道(横手・北上間)の四車線化は必要不可欠だ。実現に向けて、北上市、西和賀町と期成同盟会を設立し、積極的な要望活動を展開してはどうか。

答 現在も関係市町と要望活動を行っているが、同盟会組織の結成による要望活動は、最も効果が出るものと考えている。沿線自治体の協力を得ながら、横手・北上間の4車線化実現に向けた力強い要望活動を継続するために、同盟会の組織化に向けて努力する。

●財産経営推進計画について

問 再配置方針により、今まで利用していた施設がなくなる場合もある。計画を実行するにあたっては、地元の声聞きながら進めてほしい。

答 計画の内容を市民に十分周知している状況にないので、今後各地区会議等を中心に説明していく。



整備が始まった(仮称)横手北スマートインターチェンジ

特に廃止や統廃合の場合は、丁寧に市の方針を説明し、理解を得られるよう努力していく。

問 場合によっては、方針の見直しもあり得るのか。

答 5年ごとに計画内容の見直しを行うほか、各公共施設の再配置方針については、毎年評価を通じて見直しと改善を行っていくこととしている。

その他の質問

●平成28年度予算について
●庁内機構改革について



佐々木 誠議員

子どもたちの食育学習は 農業委員会と教育委員会が連携して行う

問 農業委員会の食育事業について、教育委員会と一緒に実施できないか。教育長の所見を伺う。
答 食育事業については、農業委員会の働きかけと教育委員会の連携、学校との呼応がしっかりできていると思われ。食育推進の環境として体験学習を継続・実現できるよう努めていきたい。
問 高齢者の口腔ケア検診の大切さは誰でも認めている。横手市でも実施の方向で検討するべきと思うが所見を伺う。
答 高齢者の口腔機能の低下は全身の健康や生活に影響する。歯と口腔の健康を維持し、切れ目のない保健事業の推進をしていきたい。
問 行政経営品質向上プログラム推進事業について、27年度の取り組み状況とその評価について伺う。
答 横手市では合併後の平成20年に行政経営品質向上を図るべく行政経営理念を定めた。市長就任後もこの行政経営理念を、すべての職員が守るべき判断基準として位置づけた。平成27年度改善活動は徐々に活動の場を広げている。しかしながら目指すべき理想の実現にはまだ十分とは言えない。今後は組織的能力の強化に努めたい。
問 アリーナ建設にあたっての市長の決意を伺う。
答 アリーナ構想は、市民が将来にわたって夢と誇りを持てるまちとなるよう全力をあげて取り組んでいく。



体験学習の一コマ

横手市財産経営推進計画(FM計画)の早期実施を望む 利用する方々に今後の方針を丁寧に説明していきたい



小野 正伸議員

問 この度のFM計画策定により、ようやく公共施設の将来像が見えてきた。今後15年を費やし、適宜見直しもあると思うが、全体的にスピード感に欠ける計画ではないか。今後の対応について伺う。
答 特に早急に対応すべき施設については、前期計画の5年間で対応していくよう設定し進めていく。また、廃校舎など空き公共施設は、市の資産としての利用価値を検討し、必要がないと判断した施設については、早期に公募による貸付や譲渡の手続きをし、いずれも該当がなかった施設については年次計画による解体を検討していく。
問 市内にはゼーナゴなどの絶滅危惧種が生息している貴重な地域が存在するが、数年前からマニアなどによって乱獲され、このままの状態だと本当に絶滅してしまう。現在の保全対策では法的な根拠がないため、県や国と早急に協議を進め、自然環境保全地域の指定を目指す、保護すべきと考え、市の対応を伺う。
答 県ではゼーナゴの保護に向けて、条例に基づく自然環境保全地域の指定作業を進めている。順調に行けば平成28年度の早い時期に指定できる見込みであり、今後、捕獲等には罰則が適用される。市としても、地元住民や土地改良区、警察等と連携して保護対策にあたり、自然環境保護の重要性を広報していきたい。



空き校舎となっている旧金沢中学校



佐藤 誠洋議員

旧大雄振興公社資産の売却損の責任をどのように取るのか 心からおわびする

問 市長は昨年5月に大雄振興公社の解散、清算を突然提案した。その際「①安易な補助金による経営支援は行わない」「②公的資金(税金)を使わずに資産(ホップ茶、ホップの原材料、乾燥機械など)を1980万円で購入することで、資金ショートを避ける」「③買い取った資産は今商談中である複数の業者に売れる見込みである」とした。しかし、その後議会には何の説明、報告もなく、入札を2回行い、いずれも応札が無く不調に終わった。3月2日の3回目の入札で、市内業者に500万円で落札したことから、差し引きの売却損が1480万円発生した。市長は「公的資金は投入しない」とした自らの発言の約束を果たす責任がある。この売却損の穴埋めをどのようにして責任を取るのか伺う。
答 解散時に議会に説明したのは、公社存続を目的とした公金投入はしないということであった。資産を買い取った公金を全額回収出来なかった。言葉足らずであったかもしれないが、可能な限り売却するという前提だった。
問 詭弁である。
答 今後も商談中であった業者と交渉を続ける。
問 市長が「税金を投入しない」と発言した責任を果たさなければ、市民に対してうそをついたことになる。
答 市民に心配をかけ、心からおわびする。



売却されたホップ乾燥サウナ設備



寿松木 孝議員

学童保育の6年生までの受入れ拡大は 早期実施を目指す

●学童保育について
問 現在、当市の学童保育の受入れは小学4年生までとなっている。国は6年生までの受入れと拡充の方針を示しているが、当市の対応は。
答 ご指摘のとおり国の指針が示され、6年生までの受入れの検討を進めている。施設の基準面積や支援員の確保において、対応可能な施設でモデル実施を試み、早期に全市で実施できるように検討していく。
問 市長自らが「横手市の命運をかける」と説明したこの施設建設には、市長自らがそのリスクを開示した中で、事業着手前に市民への説明責任を果たすことは絶対条件と考える。それは、この施設が市民生活に直結するインフラの整備ではなく、施設建設費の80%超が債務で賄われる。
答 よくてアリーナは地域活性化の起爆剤で絶対必要な施設であり、この施設整備の財源は合併特例債なくしては不可能と考えている。平成28年度での基本計画策定を了承いただいた際には、検討委員会やワークショップ、議会への報告などを通し慎重な議論を進めていく。



子どもセンターで過ごす児童たち(大雄地区学童保育)



Q 金沢交流施設で地元農産物の販売は可能か

A 販売所活動に対する支援を活用できる

本間利博議員

問 横手ブランドのあり方について、一定の基準をもたせるために認定制度が必要と考えるが、横手ブランド創出の方向性について伺う。



交流促進施設として期待される金沢小学校

答 関係団体との協議や先進地事例を参考に認定制度も含め、ブランド化推進の有効な制度を考えていく。

Q 「TPP」下で「農業立市」が守れるか!

A 各事業の充実で振興を図っていきたい

齋藤 勇議員



●「TPP」下の農業振興について
問 実験農場の機能・拡充は、現在地周辺でも可能ではないか。



枝豆日本一をめざして選果作業に励む農家の皆さん

答 現在の実験農場での整備・拡充を検討したが、周辺農地は補助事業により整備された優良農地であることから、整備を行う場合補助金の返還などが生じるため、ご指摘の場所で事業を行うのは困難と判断した。



Q コミュニティ・スクールの導入について

A 導入については検討していない

土田 百合子議員

問 学校統合が進む中、保護者や地域住民が学校運営に直接関わることで、地域と学校双方の活性化に繋がります。

子どもたちへの情報モラル教育の充実などの課題があるため、教育委員会との協議・調整を図る。



Q アリーナ建設よりも子育て支援等の充実を優先すべき!

A よこてアリーナは市内の活性化に結びついていく

立身 万千子議員

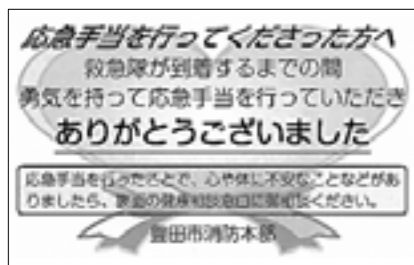
●よこてアリーナについて
問 維持管理費について民間委託には市の厳しい点検が必要と考えるがどうか。



秋田ふるさと村のドーム劇場

卒業までの入院・通院助成を4月に前倒しできないか。

問 福祉医療における中学を増やす」方策を問う
問 横手で家庭を持つ若者を増やす」方策を問う
問 福祉医療における中学を増やす」方策を問う



愛知県豊田市消防本部で配布しているバイスタンダーフォローアップカード

●狭い道路も進入可能な「軽救急車」の配備について
その他の質問
問 小・中学校における情報機器の設置状況と校内無線LAN提供開始について。

問 学校給食費の無料化を。
問 奨学金を給付制に。
答 奨学金からの償還金が給付の原資になるので困難。

厚生 常任委員会



土田百合子・高橋和樹・菅原恵悦・播磨博一・土田祐輝
佐藤誠洋・木村清貴・阿部正夫

予防接種対象者への 周知について

◆平成27年度一般会計補正予算
問 「J」尿処理」の方向性について。
 答 現在、2施設で処理しているし尿処理量も人口減少に伴い減少し、5年後くらいには横手衛生センターの処理能力に近づくと推計している。県からは、横手市と湯沢雄勝圏域を一施設で賄う広域化構想も示されている。最終的に施設で処理するか、あるいは流域下水道に結ぶかについては今後検討していく。

◆平成28年度一般会計予算
問 民間でも配食サービスを行う業者が出てきたが、事業の方向性は。
 答 現在、週3日、弁当を配達しながら安否確認をお願いしている。財源は、利用者負担のほか過疎債のソフト事業分を充てている。過疎債の充たがでなくなれば、予算全体をみて利用者負担の見直しも検討しなければならない。また、民間事業者が、安価でサービスを提供できるようであれば移行することも考えていく。

問 勤務時間が短いことなどから児童保育の支援員の確保に苦労しているようだが、対応を考えているか。
 答 横手市全体の墓地需要数を推計すると、平成32年度まで毎年49件ずつ見込まれ、また、それに続く5年間も同程度の需要で推移する。当面は、計画にそって整備を進めていくが、将来的には墓地の無縁化などが予測されることから、個々の区域を造成するだけでなく、合葬墓などの

年齢制限、労働単価などについて、今後、人事部と協議する。事業を小学6年生まで拡張しようとしても支援員を確保しなければ進められないので、処遇改善に努めている。

問 予防接種対象者への通知について。
 答 予防接種には、定期接種と任意接種があるが、保健師が赤ちゃん訪問時に予防接種予診票を渡し、年齢に応じて適切に接種できるように、保護者への周知に努めている。また、時期を逃さず接種することが大事なことから、保健師も接種の有無を確認し、接種していない方には、健康相談や電話、個別通知などによる勧奨を行っている。

問 墓園整備の方向性について。
 答 横手市全体の墓地需要数を推計すると、平成32年度まで毎年49件ずつ見込まれ、また、それに続く5年間も同程度の需要で推移する。当面は、計画にそって整備を進めていくが、将来的には墓地の無縁化などが予測されることから、個々の区域を造成するだけでなく、合葬墓などの造成も考えていかなければならない。

◆平成27年度横手市特別養護老人ホーム特別会計補正予算
問 事務の引き継ぎが行われていたにもかかわらず、なぜ計画していた加算がとれなかったのか。
 答 栄養マネジメント加算は、施設の利用者全員の栄養プランを完成させなければいけないことや家族の同意を得る事務に手間取ったことなど、準備が整わず加算取得を果たせなかった。

(土田 百合子)



たいゆう保育園の子どもたち

産業建設 常任委員会



青山豊・小野正伸・齋藤勇・佐々木喜一・齋藤光司
加藤勝義・佐々木誠・佐藤清春

「よこて農業創生大学事業」で 激論を展開

◆平成27年度一般会計補正予算
問 若年者等人財育成・地元定着事業の今後のあり方は。
 答 有効求人倍率の状況を見ながら、ハローワークと連携して、現行の支援でいいのかを検討する必要があると考えている。

問 地域DMO構築事業について、将来的には広域的なDMOに発展させようという考えのようだが、周辺自治体の意向は把握しているのか。
 答 県南の各自治体からは、おおむね前向きな返事をいただいている。当市が県南部の中心に位置しているので、音頭をとるような気概をもって進めていく。

◆平成28年度水道事業会計予算
問 廃止になった上水道施設をどのようにして処理していく考えなのか。
 答 今現在、方針が決まっていない。28年度から策定予定の水道事業変更計画の中で、方向性を検討していきたい。

◆平成28年度一般会計予算
問 街路灯をLEDに切り替えることにより、どれくらいの省エネ効果があるのか。
 答 過去4年間の電気料は平均で8322万円となっている。このうち、100ワット以下のものをLED化するにより、約4800万円まで縮減できると見込んでいる。

◆よこて農業創生大学事業
問 旧大雄中学校跡地の活用については、今後、地元の皆さんや農業者の方々、議会と協議していきたいという話があった。本来、それを先に行うべきではなかったか。
 答 校舎棟と自転車置き場を解体して更地にしてほしいという要望や、ヒアリングを行い、利活用の予定はないという回答をいただいた経緯がある。そのような意向を踏まえ、できるだけ早く園芸と6次化の拠点となり得る施設を整備したいと考えた。本来は4月早々から進めたいと考えていたが、これは拙速だという認識に立った上で、8月頃までに改めて地元の方々と話したいと考えている。

問 研修ほ場や実践ほ場なども含めて行政で全てやるうとするのはどうかと思う。研修生にとっては、農家に行き勉強するのが一番だ。地域の農家の協力を仰ぐ考えはないのか。
 答 行政だけでできるものではないと思うので、協力を求めることは当然あるものと考えている。今後の進め方についてはさらに詰めていきたいと思う。

問 研修生の指導体制について。
 答 28年度は、現在の体制に加えて、新たに2名の指導体制で行っていく。また、JAと強い関わりができたので、優秀な生産農家への視察研修も実施できるものと考えている。

(青山 豊)



増田町一本柳の道路状況を視察

総務文教 常任委員会



高橋聖悟・立身万千子・菅原正志・奥山豊和・本間利博
寿松木孝・佐藤忠久・遠藤忠裕・塩田勉

委員会日程を 延長しての審査！

◆平成28年度一般会計予算

問 まんが原画収集保存事業では、漫画家以外が版權を持つ原画の場合、収集には多額の予算を要すると思うが、どう進めていくのか。

答 出版社等に版權がある場合は高額で、交渉が困難になる場合があるので、それ以外の原画について交渉していく。また、人気原画はクラウドファンディングを活用した寄付等により購入することも検討する。

問 ふるさと納税の返礼品は品目によって品不足になっているが対策は。

答 果物類は人気があり、品切れ状態になった。業者と交渉し、対策を講じたい。また、10万円以上の寄付も多く、品揃えの拡充も検討したい。

問 地方創生のための新型交付金、加速化交付金の見込みは。

答 新型交付金は、総額1000億円と発表されている。地域再生計画を立てた中の事業に交付される。地方創生加速化交付金は、申請が採択されれば交付されるもので、2事業まで、4〜8千万の中で国から示されている。横手市は、2事業に申請している。

問 よくてアリーナ建設事業について、ハコモノに頼らないで地域を元気にしていこうという流れの中で、ハコモノで交流人口を増やすことが横手の生きる道とはどういうことか。

答 多機能型アリーナは、交流人口の増加による経済波及効果に大きく貢献できると考えている。

問 アリーナは必ず必要な社会インフラの整備ではない。だから、市民の皆さんの合意づくりが必要だが、それがなかったことをどう考えるか。

答 説明が足りなかったのは認識している。事業のトータルコストを削減するため、従来型の仕様発注ではなく公設民営のDBO方式という性能発注を想定し、ギリギリまで内容をつめて基本構想を作ってきた関係上、オープンにすることができなかった。

問 アリーナ建設事業のタイムリミットは。

答 平成32年の合併特例債使用期限までに建設しようとするので、3月議会で予算を認めてもらい基本計画の調査に入らないと建設は事実上難しい。



総務文教常任委員会での審査の様子

アリーナ建設事業では、他に「経済波及効果」「PFI方式で実施することについての懸念」「財政への不安」「スポーツ立市との兼ね合い」「他自治体との連携」等の質疑があった。

◆平成27年度一般会計補正予算

問 就学援助費について、入学時には費用がかかる現状があるので、支給時期を入学前からできないか。

答 先行自治体もあるとのことなので、今後の検討課題としたい。

問 横手情報センター構築事業とは。

答 行政、市民の情報を集めたり、市内外、国外に発信するための機関を立ち上げ、民間と共に情報発信する事業である。(高橋 聖悟)

多摩市・柏市の事例を学ぶ

1月28・29日に議会運営委員会行政視察

議会運営委員会では、東京都多摩市と千葉県柏市を視察しました。多摩市においては議員間討議の運用状況や議会による行政評価について、また柏市においては議員間討議や「議会の見える化」に合わせた議場設備の充実について研修しました。

議員間討議について、多摩市では主に委員会審査の中で行い、また柏市では議員提出議案などの質疑の中で行われており、運用にそれぞれの特色を感じました。ただ両市ともこれを行うことによってそれぞれの主義主張を言い合っ、しまつという課題を抱えながらも、議論が深まり、議題の本質が明確になるといふ効果を述べていて、今後の取り組みに大いに活用すべしと考えました。

議会による行政評価では、これまでの事業ごとの決算評価から



柏市議会の議場に設置された大型スクリーン

らに大くくりの施策評価に切り替え、市の政策の方向性をチェックするという考え方で、それによって決算と予算の連動を深くするという内容を伺ってきました。

横手市でも参考資料を自前で議場配布する議員が増えました。傍聴者やネット配信でもそれが見える大型スクリーンを設置した柏市の例も大いに参考になりました。(播磨 博一)

「地方創生」への自治体の探るべき対応とは

2月10日に議員研修会開催

横手市議会主催による「地方創生」を学ぶ研修会として、講師に東京大学法学部の金井利之教授を迎え、「地方創生への自治体の探るべき対応」と題した基調講演をいただきました。

今回の研修会には、湯沢・大仙・仙北の市議会議員や、地区会議の皆さん、市職員の方々にも参加していただきました。

金井教授からは、40年以上前から人口減少は言われていて、だからこそ過疎法がつけられた。都会には関係ない地方だけの問題のようには捉えられていたものを、「地方消滅レポート」をきっかけに、それまで無関心だった人にも火をつけた。この問題の本質は大都市圏にあるにも関わらず、都市と地方の分断や地方の問題にすり替えられてしまい、頑張っている市町村を応援すればいいという、どこか



熱弁をふるう金井教授

他人事のようになってしまう。また、地方創生は人口を目標に捉えさせているが、人口減少は客観的にみても止まらない。地域間・自治体間の競争ではなく、共生・共創を可能とする体制の再構築が必要であるなど、私たちが取り組むべき事へのヒントが多くあった研修会でした。(高橋 和樹)

厚木市との
雪まつり交流

2月15日～16日、友好都市である神奈川県厚木市議会から越智議長はじめ7名がご来訪。増田のまちなみや市内酒蔵、かまくら会場をご案内しました。日中は道路が乾いていたものの次第に吹雪となり、夜には一面真っ白になった様子に皆さん驚いていました。交流会では、互いの市の取り組みについて意見交換をするなど、大いに親睦を深めることができました。
(奥山 豊和)



増田の内蔵を見学

市民の皆さんの声をお聞かせください



“市民と議会の懇談会”で
～語るべ！
横手の未来を～

皆さん、こんにちは！ 広報広聴委員会顧問のしらとり議員です。昨年11月に誕生した広報広聴委員会広聴分科会では、市民の皆さんのご要望に応じてテーマを決め、議会報告会とは別の形で、市民の皆さんと議会がざっくばらんに話せる会を設けたいと考えています。

横手の未来について“あんなこと”や“こんなこと”をじっくり語り合ってみませんか。

懇談会でいただいたご意見・ご要望は、今後の議会活動に生かしていきたいと思っております。

懇談会開催をご希望の方は、次の内容によりお申し込みください。



横手市議会マスコットキャラクター
「しらとり議員」

対象

- おおむね10人以上の参加が可能な横手市内の団体やグループ等です。

時間・場所

- 時間は、1時間半～2時間程度。
- 日程や場所は、お申し込みの団体とご相談の上、決定します。

テーマ

- 市政に関すること
- 市議会に関することのいずれかに該当するテーマでお申し込みください。

申込み

懇談会開催をご希望の方は、テーマ、希望日時・場所などを記入した申込書を議会事務局に提出してください。

用紙は、市議会ホームページからダウンロードできますが、ご希望の方には用紙をお送りします。

問い合わせ先

横手市議会事務局 電話：32-2535 FAX：32-6539 Eメール：gikai@city.yokote.lg.jp

横手市のここが

注目!



行政視察の受け入れ状況

横手市には、毎年、全国の地方議会から調査・研究のために視察団が訪れています。平成27年度はのべ45団体、332人の方々が視察に訪れました。

昨年度の視察で一番多かったのは「健康の駅よこて」の取り組みで8団体。続いて多かったのは「食と農からのまちづくり事業」で7団体でした。この2つの取り組みは、26年度においても注目された事業でした。

昨年度、横手市を視察した団体を下記の一覧表でご紹介します。

平成27年度 横手市を視察した団体

4月	秋田県由利本荘市
5月	富山県氷見市、兵庫県稲美町、鹿児島県南さつま市、長野県長野市
6月	栃木県矢板市、栃木県佐野市、奈良県天理市、北海道室蘭市
7月	静岡県掛川市、大分県由布市、栃木県矢板市、大分県豊後大野市、福島県伊達市、秋田県、京都府八幡市、大阪府門真市、千葉県市原市、愛知県西尾市
8月	愛知県豊川市、岐阜県関市、愛知県西条市
10月	埼玉県春日部市、奈良県天理市、北海道深川市、埼玉県草加市、栃木県上三川町、埼玉県八潮市、岩手県花巻市、山形県尾花沢市、徳島県鳴門市、三重県伊賀市、長野県佐久市
11月	宮城県東松島市、新潟県村上市、兵庫県相生市、福岡県水巻町、埼玉県幸手市、新潟県妙高市、大分県佐伯市、島根県出雲市、北海道室蘭市、神奈川県横須賀市、京都府京丹後市、東京都足立区

市民の声

美しくありたい

雄物川地域 佐々木 康之さん (52歳)

「美しい」。美しいという漢字の「美」、この漢字の由来知っていますか？
この「美」という字、大きい羊と書いて「美」なんです…なんで大きい羊が「美」なの？って声が聞こえてきますね♪それはある時、羊の群れが一匹の狼に襲われます！羊たちはあわてて一斉に逃げ出しました：相手は狼ですから、それはもう必死に逃げます！鳴き声だつて「メエ〜」から「ウメエ〜」に変わったとか変わらなかつたか？と、その時です!!その群れの中で、一番大きな羊が恐ろしい狼に向かって、

たった一匹、突進していくではありませんか：「俺に任せろ！そしてお前たちは必ず生き延びろよっ！もし俺に何かあったら、母ちゃんのこと、頼んだぞ：」と言わんばかりの突進です!!その姿があまりにも美しいことから「美」という漢字が出来たと言います。
組織のリーダー、トップの仕事とは美しくあるべきです。みんなが逃げたくなるような時でも、一人立ち向かっていく!!そう、この大きな羊のようにね、議員さん♪

編集後記



今冬は例年になく穏やかで雪解けも進み、いつもより早い春の訪れに、北へ旅立つ白鳥たちにもどこか慌ただしさを感ずりました。

この度の3月定例議会では、第2次横手市総合計画や地方創生の本格スタートとなる新年度予算案等、今後の横手市を左右する重要なテーマについて白熱した議論が行われました。それぞれの想いを、多様な意見を率直にぶつけ合うことによって生み出されたものを、横手市を前に進めていくための力に変えていくことが大切であるような気がします。いろいろなことを学んだ今議会でした。

(奥山 豊和)

◆ 広報広聴委員会広報分科会 ◆



分科会長 佐々木 誠
副分科会長 奥山 豊和
委員 高橋 聖悟
土田百合子
高橋 和樹
佐藤 誠洋
立身万千子
阿部 正夫

● 議会の主な動き ●

平成28年1月～3月

市議会議員は、下記に記載のほかにも各々が所属する委員会等に関する会議や視察、研修などに出席しています。

1月

- 13日 産業建設常任委員会協議会
- 14日 FM議会番組収録
- 15日 正副委員長会議
- 18日 厚生常任委員会協議会
- 20日 タブレット端末導入推進会議
- 27日 全員協議会、会派代表者会議、議会運営委員会、広聴分科会、タブレット端末導入推進会議
- 28日 議会運営委員会行政視察
(～29日 東京都多摩市・千葉県柏市)

2月

- 1日 厚生常任委員会協議会、FM議会番組収録
- 3日 秋田県市議会議長会定例会、議員懇談会(総務文教)、タブレット端末導入推進会議
- 4日 議員懇談会(厚生・産業建設)、産業建設常任委員会協議会
- 5日 議会改革推進会議
- 10日 市議会議員研修会
- 15日 厚木市議会との友好都市交流(～16日)
- 16日 全国市議会議長会地方財政委員会
- 18日 正副委員長会議、議会運営委員会、広報広聴委員会、全員協議会
- 19日 FM議会番組収録、タブレット端末導入推進会議
- 24日 市議会3月定例議会(～3月18日)、消防議員連盟研修会

3月

- 1日 広報分科会、タブレット端末導入推進会議
- 3日 FM議会番組収録
- 7日 議会運営委員会
- 8日 広聴分科会
- 9日 タブレット端末導入推進会議
- 14日 正副委員長会議、議会運営委員会、全員協議会
- 16日 正副委員長会議、議会運営委員会
- 17日 広報分科会
- 23日 FM議会番組収録
- 25日 広報分科会
- 30日 広報分科会